

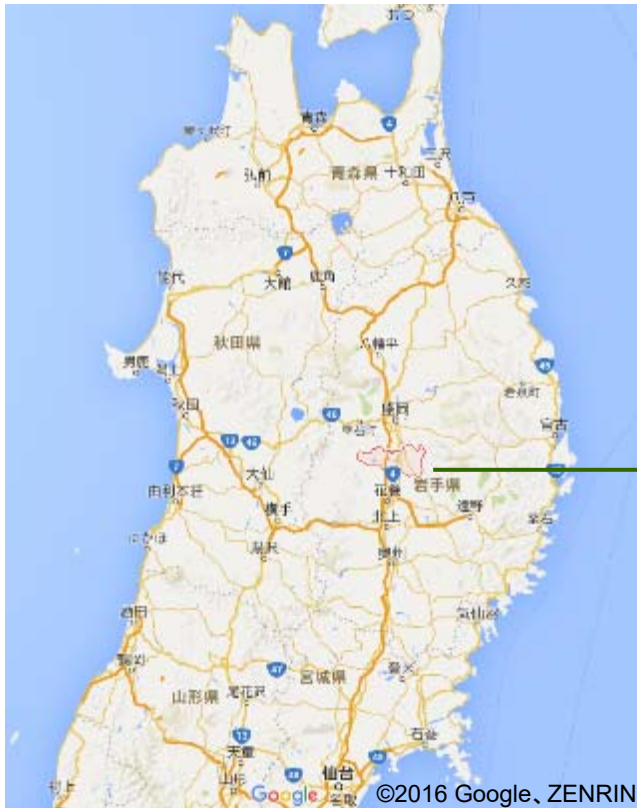
創業100年のタクシー会社と共に「しわまる号」



2026年7月21日 紫波町長 鎌田千市

岩手県紫波町(しわちょう)

主な政策 H12～ 循環型まちづくり
H17～ 協働のまちづくり
H19～ 公民連携によるまちづくり



人口 32,313人(R8.3月末)
高齢化率 32.78%
世帯数 13,259世帯
面積 238.98km²
歳出決算額 172億円(R6年度)
財政力指数 0.46 (//)
実質公債費比率 14.0% (//)
岩手県のほぼ中央
紫波中央-盛岡間16.7km 21分
(盛岡のベッドタウン)



南部杜氏発祥の地
地酒4社



フルーツ王国
ぶどう・りんご・もも



産直が8カ所ある町
地域経営



もち米



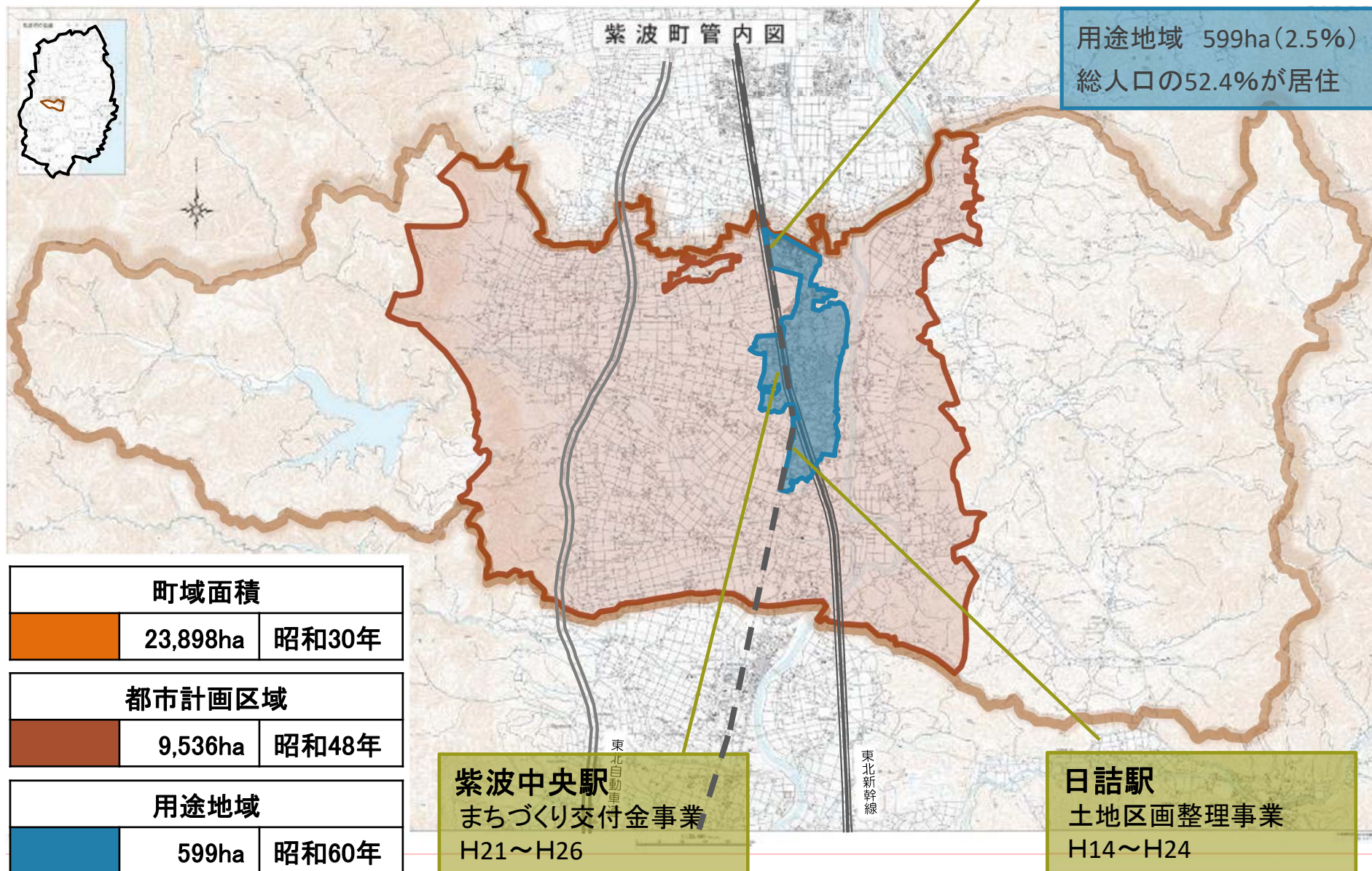
小麦



そば

紫波町の都市計画

※ 非線引区域(市街化区域なし)です



オパールプロジェクト

紫波中央駅前都市整備事業・官民複合開発



日詰リノベーションまちづくり

日詰商店街



この10年間の人口変化

平成27年3月末
33,641人

10年で
△1,267人

令和7年3月末
32,374人



西部

H27: 5,749人
R07: 4,798人
△951人

中央部

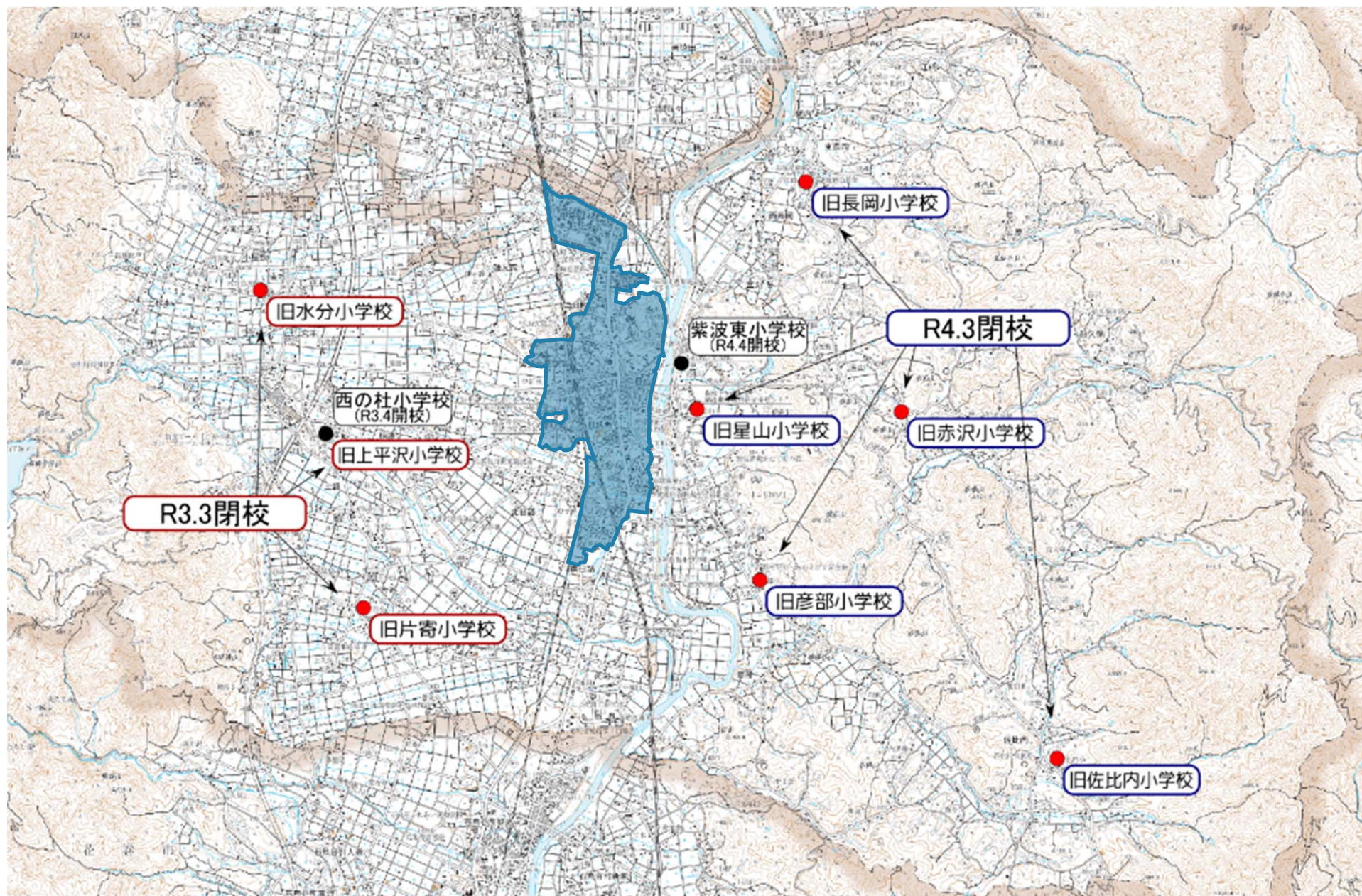
H27: 22,125人
R07: 22,979人
854人

東部

H27: 5,767人
R07: 4,597人
△1,170人

※ 外国人の住民登録者は含まれていません

7つの学校跡地 ～令和2年4月、資産経営課を新設して7つの空き校舎活用を検討～



紫波町総合計画と各計画の位置付け (未定稿、都市と農村をつなぐ観点)

紫波町総合計画

— 全町計画 — 地域
— 都市計画区域内 — 区域・施設

国土利用計画紫波町計画

紫波町国土強靱化地域計画

紫波町都市計画マスタープラン

紫波町地域公共交通計画
デマンド乗合バス(東西と中央をつなぐ)

紫波町公共施設等総合管理計画

個別施設計画

紫波町地域づくり指針

紫波町学校跡地活用基本方針

都市機能誘導

居住誘導

紫波町公民連携基本計画
日詰商店街～紫波中央駅前

紫波町日詰リノベーション
まちづくり構想(案)

旧庁舎敷地

遊休不動産

均衡が崩れた

コミュニケーション

公共交通

地域情報

農村コミュニティ

地域の防災拠点(避難所)

地区公民館

一次産業の再興

空き校舎

児童施設

JA施設の跡地等

各学校の個別方針

第三次総合計画の策定 令和2年3月議決

まちづくりの将来像

暮らし心地の良いまち

まちづくりの基本理念

循環型の
まちづくり

×

協働の
まちづくり

×

多様性ある
まちづくり

※ 計画期間を8年間に変更

市民参加条例に基づき、市民の意見を反映



市民ワークショップには、
市民36人と若手職員38人が参加



総合計画審議会 委員23名



阿部萬太郎委員長から町長に
答申が手渡された様子

地域公共交通網形成計画 令和2年6月議決

公共交通の転換

コミュニティバスの廃止：岩手県交通が撤退

デマンド型乗合バス「しわまる号」運行：(株)ヒノヤタクシー

デマンド型乗合バス「しわまる号」

10人乗り3台
ジャンボタクシー

×

地元タクシー
事業者

×

AIシステム
未来シェア

町内全域を3台の車両が運行（電話・スマホで予約）



しわまる号



車内に搭載されたシステム



ヒノヤタクシー事務所内の
AI技術を活用したシステム

紫波町の公共交通（令和2年3月31日当時）

① 鉄道：ＪＲ東北本線

日詰駅（明治23年開業）

古館駅（昭和19年開業）

紫波中央駅（平成10年開業）

その後、廃止等

② 路線バス：岩手県交通株式会社

日詰線、長岡線、見前回り志和線、犬渕線

③ タクシー：町内3事業者

ヒノヤタクシー、紫波タクシー、日詰タクシー

介護タクシー「しわっち」など

④ コミュニティバス「すこやか号」

紫波町が補助を行い、岩手県交通株式会社が運行

紫波中央駅を起点に

西回り（3路線）、東回り（3路線）、中央部（2路線）、温泉線が運行

（料金100円、朝・昼・夕の1日3便）

令和2年度以降のコミュニティバス継続は困難

平成30年7月 岩手県交通株式会社から撤退の意向が寄せられる

既存路線バス（見前回り志和線）も令和元年度で運行を停止





safety

relief

sincerity

安全・安心・真心のヒノヤタクシー



1924年(大正13年)創業当時

安心と真心と、岩手の希望を乗せて。



いつの時代も、目指す先は「お客様の安全」です。

1924年5月1日、乗合と貸切を併用する1台の車から始まったヒノヤタクシー。時代は変わっても、お客様を安全に目的地までお送りする私たちの使命が変わることはありません。変化に柔軟に対応しながら、これからも安心と真心を乗せて走り続けます。101年目からのヒノヤタクシーもご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。



おかげさまで創業100周年
株式会社ヒノヤタクシー
岩手県盛岡市中央通り1丁目8番18号 〒020-0021

会社名：株式会社 ヒノヤタクシー

代 表：代表取締役社長 大野尚彦氏

創業日：大正13年5月1日

本 社：盛岡市中央通り1丁目

営業区域：乗用/盛岡交通圏（盛岡市・滝沢市・矢巾町）

紫波郡紫波町

ハイヤー/タクシー/福祉車両

ジャンボタクシー 7台

大型ハイヤー 12台

普通車 80台

福祉車両 1台

Smart Access Vehicle Service (SAVS)

システムの概要

AIによるリアルタイムな便乗配車計算を行うサービス。
タクシーのオンデマンド配車とバスの乗合運行を掛け合わせ、都市レベルでの最適交通を実現する。

- AI (完全自動)
 - オンデマンド
 - リアルタイム
- 便乗配車
サービス



デマンド型乗合バス「しわまる号」の導入

平成29年7月～	公共交通に関する町民意識調査実施
平成30年 5月	すこやか号路線再編
7月	岩手県交通から『コミュニティバス事業からの撤退』の意向が示される
11月～	町内交通事業者へ聞き取り調査
令和元年 6月	デマンド型乗合バス実証実験公募型プロポーザル方式を実施。事業提案を受ける
7月～9月	住民説明会
10月	紫波町デマンド型乗合バスの 実証実験を開始 10月4日～10月31日 予約件数389件 利用者数500人
12月	再度、公募型プロポーザルで事業提案を受ける
令和2年 3月	周知用チラシの作成（全戸配布、町内各施設・すこやか号車内に配置） 地元商店会・商業施設のセールチラシに掲載を依頼 医療機関・商業施設等に利用者の予約時のサポート協力を依頼
令和2年 4月1日～	紫波町デマンド型乗合バスしわまる号運行開始
令和3年 4月	運行2年目に突入。6・7月のコロナワクチン集団接種の際に限り増便対応。
令和7年10月	運賃を600円（乗合発生時400円）、運行時間を17時までに変更

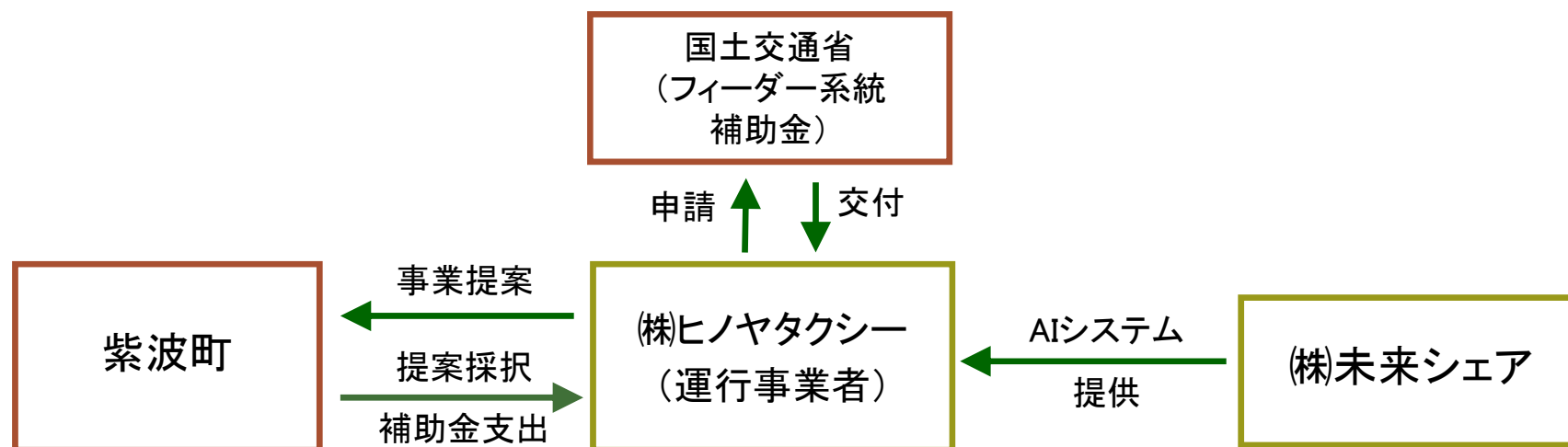
デマンド型乗合バス「しわまる号」の概要

※R7.10に運賃、運行時間を改訂

- 対 象 どなたでもご利用可能
- 運行日 原則毎日運行（土日、祝日も運行）
- 運行区域 紫波町内全域
- 運行時間 午前8時～午後5時
- 運行車両 ワゴンタイプの車両（最大乗車人数は各8名まで）
平日4台、土曜3台、日祝2台運行
- 乗車場所 停留所を設定しませんので、自由に乗降場所を設定できます
ドアツードア方式、フルデマンド方式
- 利用料金 1人1回（片道）600円（乗合が発生した場合は400円）
※小学生は1人1回200円（乗合が発生した場合は100円）
未就学児は無料
- 利用方法 電話またはスマートフォン（Webサイト）での予約



デマンド型乗合バス「しわまる号」の事業スキーム



A I 配車システムの効果

① オペレータの労力削減

スマホ予約 → AIが自動で予約処理 → しかし、スマホ予約が全体の1割

② 利用者に最短距離で移動を提供可能

AIが最短ルートを計算 → コミュニティバスは運行1回あたり1時間以上

③ タクシー業界の運転手不足への一助

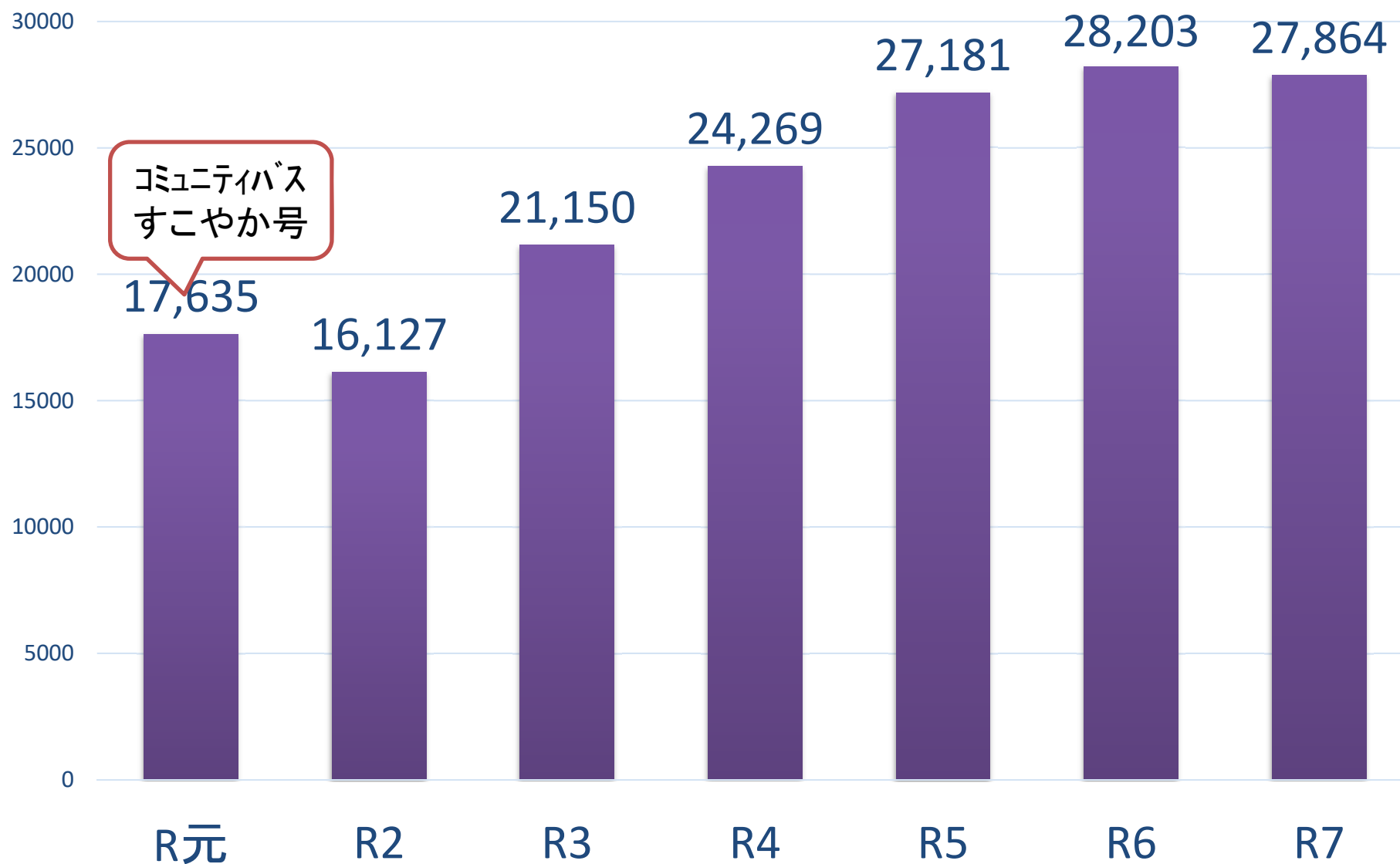
最適ルートで、土地勘がなくても大丈夫 → 他営業所からのドライバー応援

④ タクシーの混雑緩和

雨天時はタクシーが混雑 → しわまる号を紹介することで混雑緩和

年間乗車数

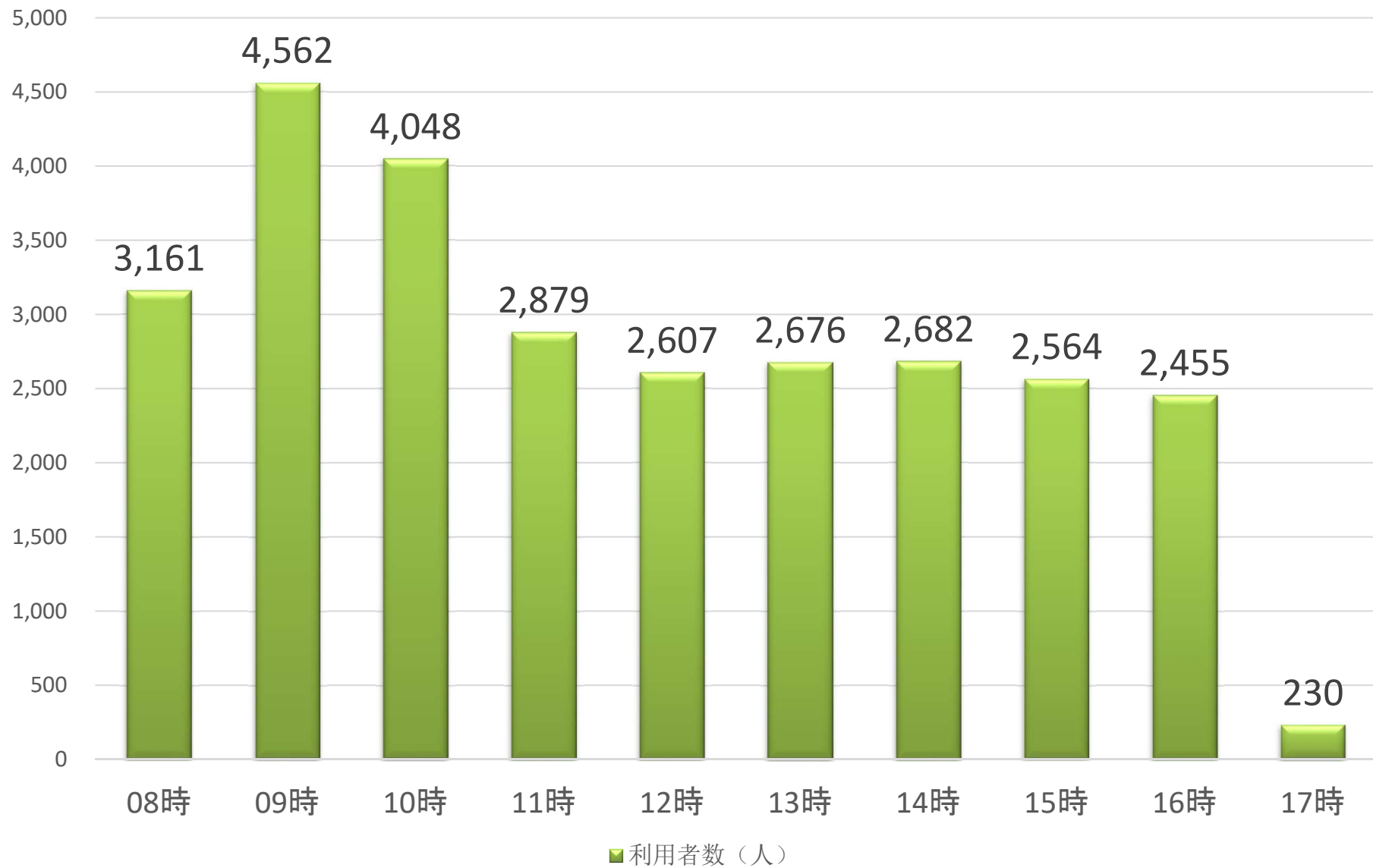
※R7.10に運賃、運行時間を改訂



運行開始:デマンド型乗合バス『しわまる号』

時間帯別トリップ数

令和7年度運行実績より





目的地	割合
クリニック 薬局	20%
スーパー ドラッグストア等	13%
駅 バス営業所 タクシー営業所	5%
あづまね温泉	5%
公民館 体育館等	3%
JA 郵便局 銀行	3%
紫波町役場	2%
理容室 美容室	1%
飲食店	1%
個々人の自宅等	50%
総計	100%

7つの小学校の跡地活用



紫波町の未来予想図
資源×ひと
新しい価値を創っていく